

金品攻勢「贈収賄でアウト」

と発原 電関 マネー 癒着 ③

役員のみ握り仕事引き出す

原発を支える主要3業種は設備、土木、警備。パブル経済崩壊後の1990年代以降、福井県高浜町の助役を退任し民間企業に転身した森山栄治氏（故人）はこの3業種すべてに関わり、なりふり構わぬ営業で売り上げを伸ばしていく。

「今から行く」
関西電力若狭支社長に就いたばかりの元役員は自宅

に、連絡が入った。部下から対応について「要注意」と耳打ちされていた森山氏。住所と電話番号は、関電内の誰かが伝えていた。森山氏は設備メンテナンス会社「柳田産業」の相談役を務めていた。「うちの会社をよろしく」と封筒を差し出した。10万円の商品券が入っていた。
「来年もよろしく」。スーツの仕立券を渡された。断れなくなっていた。
「森山氏は、誰に何を贈っていたかよく覚えていたという。俺はお前たちの弱みに握っている」。金品で相手を縛り、要求に逆らえば、原発の運転を妨害すると突きつけるのが「森山氏のやり口だった」と元役員は振り返る。

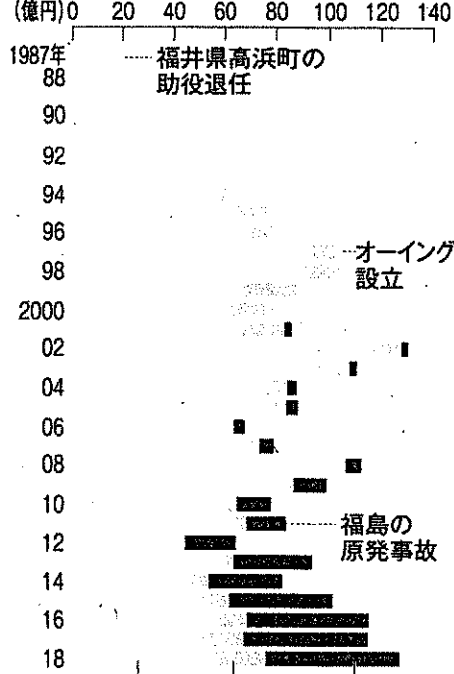
森山氏は法曹界に進んだ親族の持ち出しで言った。「（親族に）聞くからね、仕事関係で金品をやりとりしたら贈収賄でアウトやうて言うてましたわ」。
元役員は全身がこわばるのを感じた。「関電の役員が金品を受け取り、それは犯罪に当たるのではと、言外におおわてくるんだ。これはまずいと思った」
森山氏は、誰に何を贈っていたかよく覚えていたという。俺はお前たちの弱みに握っている。

関電は、森山氏への特別扱いをエスカレートさせていく。
「わしに毎朝連絡せよ」。
高浜原発の元所長は午前8時、森山氏の自宅に電話することが日課だった。原発でトラブルが発生すると、自宅に駆けつけて公表前の情報を報告。関電の人事情報には内示直後に説明するようになった。この元所長は「関係をこじらせたなら、会社の上層部から『何をやってんだ』とやられる。現場にいる間は我慢するしかなかった」。

90年代には町内有数の企業に成長する。町内の同業者は「関電の大きな仕事は森山氏を通さないと受注できないようになっていった」。
9割、6割、5割。それぞれ設備、土木、警備の関連3社の売り上げに占める、関電の割合だ。

森山栄治氏の関連3社の売上高

柳田産業とオーイングは3月期、吉田開発は8月期。民間調査会社調べ



柳田産業	吉田開発	オーイング
設備	顧問	取締役相談役
副社長など		
元助役 森山氏(故人)		

社内には森山氏の窓口となる担当社員までつけ、

近年は土木建築会社「吉田開発」の顧問としても活動した。同社は81年に設立。「溝の補修のような小さな町の工事を請け負っていた」と元町職員は振り返る。

90年代には町内有数の企業に成長する。町内の同業者は「関電の大きな仕事は森山氏を通さないと受注できないようになっていった」。